二〇一五年一〇月二〇日（参加者一一名）

叢林の磐座に佇ち秋惜しむ　わかば
秋さぶや触るれば動く力石　わかば
音立てて木の実弾ける石畳　わかば
叢林の裂け目に覗く天高し　わかば
秋日さす杜抽んでし甑岩　わかば
甑岩めぐり祈願や秋天下　ひかり
朱柱のさはにまぶしき宮小春　ひかり
叢林をもとほりをれば残る虫　ひかり
宮小春誰も彼も撫づ力石　ひかり
磐石に座して動かぬ秋の人　せいじ
大杉をうち仰ぐ天高きかな　せいじ
参道の木洩れ日縫ひて秋惜しむ　せいじ
走り根にな躓きそ落葉径　宏　虎
天辺に彩づく紅葉砂防ダム　宏　虎
菊の賀や百寿ことほぐ初句集　かかし
破れ柘榴ムンクの叫ぶごと落下　かかし
参道のここだ木の実や踏むまじく　菜　々
立札に神水六讃杜さやか　菜　々
セコイアを門柱として天高し　満　天
秋日和鳥居くぐれば力石　満　天
神の磐撫ぜて秋思をうべなひぬ　小　袖
神の磐割れ目に宿す草紅葉　小　袖
昼暗き神の樹林や小鳥来る　明日香

定例句会みのる選

二〇一五年一〇月二〇日（参加者一一名）